九州・沖縄ブロック秋田県人会だより　第26号（2021年7月発行）

心をひとつに

秋田県人会 九州・沖縄

題字：ばんば三郎

新型コロナウイルス感染症



五十嵐順悦さん（横手市）

令和の御代になるや否や、全世界が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の爆発的な流行に襲われた。COVID-19の治療に当たる医療従事者は、高度で専門的な知識と技術をもって、最前線で未知のウイルスに立ち向かった。我々は感謝の言葉しかない。

この新興感染症パンデミックの終息のためには少なくとも6割程度の集団免疫が必須と考えられている。そのため、大規模接種センターや職域接種等によるワクチンの集団接種が加速化している。ファイザー、モデルナおよびアストラゼネカの3社のワクチンは、日本において海外ワクチンにだけ適用される「特例承認」がされた。集団免疫が獲得され、一刻も早いCOVID-19の終息を願うばかりである。

筆者は、現在、福岡県と久留米市の第3セクターである株式会社久留米リサーチ・パーク（2001年9月設立）でバイオ産業振興プロデューサーとして勤務している。この会社は、バイオ産業の創出や県南の中核都市である久留米市を中心とした地域に関連企業や研究機関の一大集積拠点を形成させる「福岡バイオバレープロジェクト」(FVP)の事務局であり、筆者の業務は、FVPの総合プロデュースである。FVPが支援する成長著しいバイオ企業は多数あるが、実は、COVID-19に関連している企業もあるので3社紹介する。

九州大学発ベンチャー企業「KAICO株式会社」は、新型コロナウイルス抗体検出キットを発売しており、また、COVID-19ワクチンを開発中である。

「株式会社ボナック」は、福岡県と共同で次世代医薬「核酸医薬」による「COVID-19治療薬」を開発中であり、国立研究開発法人日本医療研究開発機構から50億円の資金を得た。

「株式会社SENTAN Pharma」は、生体吸収性高分子ポリマーによる薬物封入ナノ粒子製剤によるCOVID-19治療薬を開発中である。

これらバイオ企業の今後の飛躍とその結果としての地方創生に大いに期待している。コロナ禍を奇禍として、デジタル化の遅れが露見し、デジタル庁の設置に結び付いた。今後は国家として、戦略的なデジタル化に取り組む必要がある。

また、COVID-19は、感染者などへの差別や偏見という点で私たちに課題を投げかけた。偏見・差別は公衆衛生上の脅威であり、これらは，偏見の対象となる人々の心身の健康や福祉にダメージを与えるばかりではなく，現在と将来の伝染病の封じ込めを困難にする。私たちは公衆衛生にきちんと取り組む責任がある。

新型コロナウイルスの流行が終息し、ワクチンなどを含む対応策が確立されたとしても、もはや以前通りの世の中へと戻っていくことは難しいと考えられ、生活のあらゆる局面で「新たな常識」を意識することが必要となる。このニューノーマル時代の到来は、新しい生活様式やビジネスの在り方について、今一度考えなおす好機でもある。

（注）COVID-19の状況は日々大きく変化しており、本稿は6月15日時点の状況を踏まえたものである。

藤スタジオ　訪問



4月29日午後、北東北三県福岡合同事務所佐藤朋弘所長と秋田公立美術大学教授で秋田市文化創造館（旧県立美術館を改装）の初代館長の藤浩志（ふじ ひろし）さんのスタジオを訪問しました。

スタジオは、福岡市と唐津市の中間辺り、二丈深江（にじょうふかえ）にあります。ソーラーパネル設置を最優先として改築を始めた倉庫は、今では3階まであり、おもちゃやぬいぐるみが賑やかに並んで、楽しい空間が広がっています。大きなガラス戸の向こうは唐津湾。アーティストのスタジオのムードたっぷりです。

藤先生の生活の95%は秋田、5%が福岡にあるそうですが、取材当日は、ここでイベント準備の最中でした。先生は、鹿児島県奄美大島ご出身、家業は大島紬の生産だったとのこと。地方の伝統工芸、秋田県でいえば、樺細工や漆塗りなどを新しい風に変える取り組みもされており、そのルーツからかもしれません。

京都市立芸術大学卒業後、十和田市現代美術館に関わられていた頃、秋田公立美術大学の役職公募の案内書を見たのがきっかけで、同大学の設立2年目から教鞭をとられています。専門はアートプロジェクト、地域計画、空間造形。

「公立の美大は珍しい。城郭跡が公園に転用されているのが素晴らしい……」と秋田市を称賛。何やら自分まで褒められたような、いい気分になりました。こんなふうに、学生さんたちを惹きつけ、才能を伸ばしてあげているのでしょう。秋田公立美術大学の学生さんの6～7割は県外出身者であり、卒業生の3～4割は、秋田に定着するそうです。住宅会社などに就職し、デザインのみならず、商品開発や企画の分野で感性を発揮しているようです。秋田は、寒風山の石材、新屋の海岸の漂着物など、創作の要素に溢れ、抜群の美術教育環境なのだとか。良い学生さんが巣立っていくわけです。

先生の実績に、行政や企業と連携した「ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト」があります。駅通路、待合ラウンジなどを、県産材で木に囲まれた空間に作り上げたこの事業により、「ウッドデザイン賞2017」の農林水産大臣賞（最優秀賞）を連名で受賞されています。

面談中、藤先生は、秋田に美大があることの利点、市や県、地元と協力して新しいことを企画・展開する面白さを熱く語ってくださいました。帰省しても、過疎化や不便さなどネガティブな所にしか目がいかなかった私にとっては、認識を改める良い機会となりました。（小池敦子）

橋本花帆さんも15歳

花帆（かほ）さんは、2011年3月の東日本大震災、発生時に福島市の幼稚園にいました。5歳になったばかりでした。

母親の薫さんが迎えに来て市内の自宅に帰りましたが、電気も水道も止まったままで、両親と祖父母の家族5人は暖房を入れた車で寝泊まりしました。6日後、教師をしている父親、健さんを残して薫さんと花帆さんは、伊丹空港経由で福岡に避難しました。その年の12月、福岡の福島県人会を通じて、東北に縁のある子役を捜していた「わらび座」からミュージカル出演の依頼が舞い込みました。



ミュージカルは、東北の蝦夷（えみし）を題材にした「アテルイ　北の燿星（ようせい）」。アテルイの息子「星丸」役。震災の怖い体験が残り、少し泣き虫だった花帆ちゃんは、2012年1月の福岡公演で見事、星丸を演じ切りました。2013年4月、福島の自宅に戻り、福島の小学校に転校しました。父親、健さんの仕事に伴って、途中3年間は米国シカゴで生活し、多民族国家を体験しました。薫さんの父方の実家は広島県廿日市市で、広島原爆も学びました。こうした体験を多くの作文で綴るようになり、読書感想文コンクールで中学校時代に内閣総理大臣賞を受賞するなど、作文コンクールでは、受賞者常連の一人です。現在、県立福島高校1年生の花帆さんの夢は、国連の高校生平和大使になることです。

オガーレ初代駅長と秋田犬つばき

秋田県男鹿市の道の駅「オガーレ」の初代駅長、山崎宏幸さん（64歳）が、5月31日付けで、駅長を退任され、看板犬として親しまれていた秋田犬「つばき」と一緒に、福岡県宗像市の自宅に戻られました。

山崎さんは、福岡県宗像市の道の駅「むなかた」の館長公募に応募し、初代館長として「むなかた」を九州で一番人気の道の駅に育て上げました。

4年前、道の駅、運営の手腕を見込まれ、男鹿市からヘッドハンティングされて「オガーレ」の初代駅長に就任されました。この間、住民票も男鹿市に移し、農水産物の出品者開拓を熱心に進め、加工法についても、宗像から経験者を秋田に呼んで講習するなど、コロナ禍の中でしたが、3年で黒字転換し、経営に道筋が付いたと退任を申し出られました。秋田犬「つばき（雌2歳）」も、看板犬を5月末で引退しました。道の駅のカリスマ駅長、山崎さんは、再び、福岡・九州で手腕を生かします。



東海林太郎立像、お披露目



戦前から活躍し、国民的歌手と呼ばれた東海林太郎（1898～1972）の立像が秋田市文化創造館敷地内に建立され、3月27日に、お披露目がありました。

福岡・秋田県人会会員で東海林を師と仰ぐシンジー（麻生進さん）もお披露目に駆け付けました。直立不動で歌う東海林の姿を後世に残そうと国内外から募金を始めたところ、目標を上回る500万円以上が集まりました。このうち約100万円は佐賀県から贈られました。

贈り主は、昨年2月11日に89歳で亡くなった草場昭司さんです。草場さんは、佐嘉神社の宮司でした。草場さんは、旧制武雄中学時代、東海林太郎の公演を聴きました。東海林は、武雄中学の野球部が粗末な用具で練習しているのを見て、公演のギャラを全額、中学に寄付したそうです。

武雄藩は、戊辰戦争でも多くの援軍を秋田藩に送り、戦死者を出しながら、秋田藩を守った縁から、秋田・武雄の交流が続いています。秋田市の立像建立委員会では、県民会館のそばにあった東海林の胸像を佐賀県に贈ることも検討しています。

どぶろく文化、継承



福岡・秋田県人会、会員の坂本英明さんの父、勇さん（85歳）は、2010年に横手市が「どぶろく特区」の指定を受けてから、酒米「秋田酒こまち」やアワを使った、どぶろく造りをして来ました。しかし、年齢が進んで酒の味見に自信が持てなくなり、秋田県人会にも後継者を捜す依頼をされていました。こうした中、横手市で自動車整備工場を営む伊藤昇平さん（49歳）はじめ5人が、どぶろく造りを受け継ぐことになりました。

伊藤さんは、坂本さんのもとで、1年間、どぶろく造りを手伝ったあと、秋田県総合食品研究センターでも2週間、研修員として、製造や分析、帳簿、税務などを学ばれました。どぶろくの名称は、「山内濁酒　六華―Rika―」〈500ml、度数15～16〉で、500本製造し、3月から販売を始めました。県人会の会合でも、英明さんが持参したことがありますが、昔を感じさせる味でした。

みちのく夢プラザ、移転、グランドオープン





北村萌華さん

4月14日、（秋田青森岩手）北東北3県合同アンテナショップ「みちのく夢プラザ」が福岡市中央区天神の新天町に移転し、グランドオープンしました。場所は、これまでの店舗から南東方向に僅か30m、新天町の南北通りを西に進んで突き当りの目立つ場所です。秋田杉と黒を基調にしたシックなデザインの店舗で、1階は飲料、食料、2階は工芸品を中心に販売しています。グランドオープンには、秋田県の堀井副知事（当時）や青森県の三村知事、岩手県の達増知事が出席して、テープカットし、新天町の広場では、郷土芸能が披露され、秋田県は男鹿市から「なまはげ太鼓」も駆け付け、セレモニーを盛り上げました。



前日の13日には、近くの西鉄グランドホテルで、堀井副知事を囲んで、秋田県観光スポーツ部の佐藤次長、秋田うまいもの販売課の柴田課長も出席し、熊本、佐賀、福岡の秋田県人会代表が意見交換をしました。

三密を避ける為、1時間と制約された中でしたが、福岡・秋田間の航空路＝直行便を復活させて欲しいとか、雪下ろしなどに都会の若者の力を活用すべきではないか、秋田の食材には力（チカラ）がある。消費者の目がシビアな福岡で、単なる物産展ではなく、秋田の食材を、もっと売り込んで魅力を伝えて欲しい、イートインスペースはどうか、などの厳しい意見も出ました。

なお、3月15日には、北東北3県合同福岡事務所が新築の福岡大名ビルⅡ（福岡市中央区大名1－12－60）7階に移転して業務を始めました。4月から、秋田県庁職員の北村萌華（もえか）さんが勤務しています。秋田県庁からは、佐藤朋弘所長、小野貴久次長と合わせて3人です。4年間、勤務された羽沢勝己さんは、秋田県鹿角地域振興局に転勤されましたが、「10年後には3度目の勤務で福岡に戻って来たい」とメッセージを残されています。秋田県福岡事務所の北村萌華（もえか）さんから、SNS、、、、のご案内です。疲れた時には、SNSから「ふるさと」に思いを馳せてみませんか？　https://twitter.com/kitatohokusanke

東北6県県人会代表者会議



3月16日、場所は新装移転した、北東北3県合同福岡事務所で開催されました。11月3日に予定されている第10回、芋煮会（祭）再開について、9月にもう一度、会議を開いて検討する事を申し合わせました。コロナ禍での各県人会の近況です。

●福島（三森弘一）：会は、とびうめ国体の1999年から。会員は88人。2021年2月から会長をしています。2020年2月に総会をしたのが、最後。現在は役員間の連絡のみ。年2回の総会より、芋煮会に来る会員が多く、楽しい。レクリエーションだ。

●山形（村越誠）：会長は北九州で、私は事務局です。総会を2年、開いていない。芋煮会（祭）中心の活動です。芋煮会があれば、会の魅力を出したい。筑後支部があったが、事情があってやめた。

●青森（甲地史昌）：会は古く42年になる。九州山口が範囲だが、中心は福岡・熊本。3月は総会時期だが、総会に代えて役員改選を書面でする。規定も変える。幹事に若手を登用したい。若い人が盛り上がっている。夏のビアガーデン交流会に、以前は、30人位集まっていたがコロナですべて停止。10月には太宰府天満宮で青森フェアを開催。役員はボランティアで、活動資金も充実させたい。

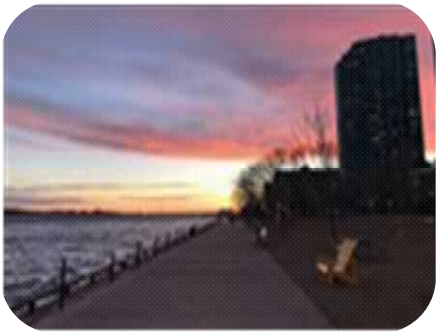
●岩手（藤原繁雄）：福岡に50年住んでいます。三県事務所創立に関わったことで世話人をしています。会員は70人～80人。名簿は貰えない時代。祇園町の居酒屋「ぼくらの浪漫食堂」女将が岩手で年4回、1、4、7、10月の第3木曜日、4000円飲み放題の会費で集まっていたが、コロナでストップ。西郷どんと宮沢賢治のコラボで屋久島の県出身者を訪ねたこともある。鹿児島にも岩手の人がいる。2020年1月からストップ。

●秋田（中村靖）：年2回、往復はがきで会員に近況を尋ね、一覧にして、郵送。会員個人の演歌発表会や写真展など。地域おこし3年で大館から秋田犬を連れて戻った福岡の女性にも会った。3月21日は、J2サッカーを小倉で応援。

●宮城（高橋透）：今回は欠席ですが、芋煮会（祭）が土日祝日であれば、参加します。皆さんに、くれぐれも宜しくお伝え下さい。

また、佐藤朋弘所長（秋田県）から、2021年9月30日まで、東北DCデスティネーション「巡るたび、出会う旅。東北」が展開されています。東北6県とJRグループなどが、東北への旅にいざなう企画という紹介がありました。

トロント斎藤健史さん



昨年８月にカナダ・トロントに着任して、10か月が過ぎました。

トロントでは、日本より厳しい行動制限が敷かれていますが、ワクチン普及の効果もあり、徐々に感染者数も減少しています。

6月11日から、レストランや小売店の営業制限緩和が実施されます。地ビールの店や、博多ラーメンの店もありますし、今まで行けなかった外食にも出かけようと思っています。トロントは北緯４３度と、旭川市と同じくらいの位置にあるため、夏の日没は遅く、夜は9時頃まで暗くなりません。気温は秋田より少し寒いくらいの感じです。

ワクチンは４月19日に１回目を接種しました。２回目は７月中旬頃の見通しです。

ハワイ島、大坪洋子さんから、二つの便り

ハワイ島に住む秋田県出身の大坪洋子さんから、まず、コナ日本文化センター建設構想の便りがありました。オアフ島のホノルル・ワイキキからアラワイ運河を隔てて北東方向のモイリモイリ地区にハワイ日本文化センターがあります。1868年（明治元年）まで遡る日系移民の歴史を伝えています。

ここは、ダウンタウン（市街地）の一角で日系人も多く住んでいますが、いまや、ハワイは日系6世が成人を迎える時代です。大坪さんは、ハワイ島コナにもコナ日本文化センター建設の構想が進んでいると伝えて来ました。約70エーカーの広い丘陵にコーヒー園を配し、桜並木で囲んだ敷地には、多目的ホールやレストラン、子供広場、盆踊りのステージ、池などハワイ島の豊かな自然を生かした配置になっています。コロナ禍が落ち着いたら、募金活動を本格的に始めるそうです。

もう一つの便りは、「Okagesama de～ハワイ日系女性の軌跡～」という映画制作の話です。
松元裕之監督が、ハワイに渡った日本人女性、ハワイで生まれた日系女性の歴史や歩みを伝えるドキュメンタリー。
証言者の2世は、90歳代後半です。こちらも、クラウドファンディングで資金を募っています。
ゆうちょ銀行00220-2-49140ナックジェイ宛「オカゲサマデ」へ、お願い致します。





サザンティンカーベル新体操クラブ・第1回発表会

サザンティンカーベルの新体操クラブ・第1回発表会が4月3日（土）16時から太宰府市総合体育館「とびうめアリーナ」で開催されました。
会場の広い体育館フロアには、風船のバルーンアートが飾られ、指導を受けている子供達32人が参加しました。観覧席には、3密を避けながら、ご家族など、およそ100人が見守り、リボンやフープなどを使った可愛い演技に大きな拍手が送られました。サザンティンカーベル新体操クラブは、2019年6月から始まった新体操の教室です。男の子でも女の子でも、ご入会いただけます。どの競技にも対応できる体幹を養い、健康な身体作りを目指します。



◆練習日　毎週土曜または、日曜
エンジェルクラス　1レッスン50分　キッズクラス　1レッスン90分
◆練習場所　大野城市内の体育館、コミュニティセンター、公民館など

☆講師　高橋亜季さん　プロフィール
秋田県出身、元日本代表強化指定選手、平成18年度大阪インターハイ種目別ロープ3位、平成19年秋田国体総合優勝、幼稚園教諭二種、小学校教諭二種免許
https://www.youtube.com/watch?v=apuVS_YmfgM

熊本

熊本県芦北町佐敷の居酒屋「一蓮亭」で【一白水成】

芦北町は、博多から九州新幹線で一旦、新水俣に向かい肥薩おれんじ鉄道（旧・鹿児島本線）で北に3駅戻った佐敷（さしき）駅が最寄りです。乗り継ぎ時間を入れて、片道約2時間。その駅前にあるのが「一蓮亭（いちれんてい）」。3月30日、水俣市に住む熊本秋田県人会、世話役の長谷川忠志さん、みちのく夢プラザの佐藤朋弘所長と訪ねました。元気印の女将の井上綾子さんは、横手市大森町出身です。





驚いたのは、いきなり、清酒、一白水成（いっぱくすいせい、秋田県五城目町、福禄寿酒造）が出て来た事です。秋田や東京でも、入手困難の限定酒です。佐藤所長が声を挙げて驚いていました。近海の新鮮な刺身や小さな鍋物などをリーズナブルな値段で頂きました。

さて、佐敷駅周辺は、昨年2020年7月4日の熊本県を中心にした集中豪雨に襲われました。鉄道は長い間、不通になり、綾子さんの店も、70人近く入る広い座敷や掘りごたつ形式の個室が、床上60㎝まで浸水し、畳から、すべてやり直しが必要になりました。大工さんが不足していた事やコロナでよそから応援を呼べなかったこともあって、復旧したのは11月。何と4か月も、かかったそうです。自宅は、店の2階で、一時は電気や水道が止まり、トイレも使えなくなりました。ご家族は、修一さんのお母さんとワンちゃん2匹。今回の水害に何でも経験だからと明るく笑い飛ばしていました。綾子さんは、店が開けない間を利用して、昨年9月に妹さんが守る大森町の実家へ、暫くぶりに帰りました。ご主人の修一さんとは、東京で知り合い、1989年に修一さんの実家のある芦北郡芦北町佐敷へ。佐敷での生活は32年になります。始めは、夏場が暑いのと芦北の言葉が分からず、困ったそうです。修一さんの実家は以前、三島食堂という屋号で食堂と弁当の配達をしていましたが、コンビニやスーパーに押されて現在の居酒屋に切り替えたそうです。コロナで時短はありましたが、地元の常連客を中心に繁盛を続けています。今年も梅雨が明けると台風シーズンを控え、佐敷の被害が心配です。

福岡

2021年2月、会員142人に近況をお尋ねしました。49人から、ご返事を頂きました。気になった事をいくつか、ご紹介します。

コロナ禍の中で、3人の方から、「職場で陽性者が」、「近親者に陽性者」、「知り合いが感染」とありました。高齢者からワクチン接種が始まりましたが、感染対策には、尚、一層の注意が必要です。また、「秋田の実家に1年以上、帰れず、冬場、楽しみにしていた『だだみ（真鱈）』も食べられませんでした。秋田の言葉が本当に恋しい」と書いた方も。

東京・在住の高田由香さん（クロスFMや秋田放送などで活躍）は「instagram・twitter・facebookで、活動情報を毎日更新しています。秋田県人会の皆さん、是非、見て下さい」とありました。

最後に、三瀬和蜂（日本蜜蜂）研究会を主宰する安岡忠夫さん（福岡市早良区）から、「佐賀市三瀬村に毎日、通っています。自然が豊かな三瀬に、おいで下さい」と、ご案内を頂きました。

9月の例会、11月のキリタンポ鍋チャリティ、門司港キリタンポ鍋、いずれも未定です。近況交換のため、往復はがきをお送りします。返信へのご協力をお願い致します。

また、福岡・秋田県人会会員で2021年度分の年会費1000円をまだ納めていない方は、以下の口座へ振り込みをお願い致します。

ゆうちょ銀行、記号17410、番号47046051、福岡・秋田県人会　宛
他の金融機関から振り込む場合
【店名】七四八（読み方　ナナヨンハチ）
【店番】748【預金種目】普通預金【口座番号】4704605



沖縄

6月23日は沖縄慰霊の日ですが、今年は糸満市摩文仁の丘にある「千秋の塔」への献花を見合わせました。コロナ感染を防ぐ為です。昨年11月から毎月第3土曜日の例会も見合わせています。

マルヌ河

福岡・秋田県人会、会員の洋画家、芹沢幸子さんから、ご自身が描いた絵葉書が届きました。「マルヌ河は、セーヌ河の上流。まだ寒い3月、雨上がり、荒々しさの余韻を残しながら、ただただ滔々と流れる河で鴨たちが無心に泳いでいた。」と書いています。



今年11月15日（月）～21日（日）東京駅、地下1階、「ギャラリー八重洲・東京」でグループ展（蝸牛）に出品予定、出品は36回目になるそうです。

芹沢さん、絵の描き過ぎで背筋を痛め整形外科でブロック注射を打っていたそうですが、個展への意欲は、益々盛んで、目下、福岡市中心部で画廊を探しています。

シンジー（麻生進さん）演歌の会

○日時：2021年9月26日（日）14時開演、
○場所：福岡市中央区天神、アクロス福岡・円形ホール、
♪国境の町、雨に咲く花、湖畔の宿、シベリア・エレジー、ズンドコ節など、秋田県人会会員は、半額割引。♫Youtube：シンジー（渡る世間に鬼はなし）（母に捧げる歌）
℡080-3964-9115、麻生進さんへ。

募集

会報へのご意見、ご感想、投稿をお願い致します。
宛先は、福岡・秋田県人会、中村靖、
メールアドレス：o-nakamura@mms.bbiq.jp
郵送の宛先　：〒819-0013、福岡市西区愛宕浜2－3－11－1406

